



きたむら ちな
北村 智奈さん

国東高等学校 女子卓球部

北村 智奈さん（2年生）は、小学校1年生の時に幼なじみに誘われて卓球を始め、国見中学校在学中は団体戦で九州大会に出場しました。そのようなことから、高校入学後も卓球部に入部し、顧問の先生や保護者の皆さんの指導や支援を受け、技術の向上を図りました。また、男子部員も含めた総当たりの練習で実力をつけ、昨年11月に行われた県の新人戦ではベスト4に入り、創部以来初の九州大会出場を果たしました。

智奈さんは、「地元の国見町をはじめ、市内中学校の有望選手の大半は市外の高校に進学しています。市内の中学生に国東高校でも全国を目指せるとしてもらえるよう、6月のインターハイ予選でもベスト4に入り、もう一度九州大会に出場したいです」と話していました。



はしもと しゅん
橋本 隼さん

割烹 太喜(安岐町塩屋)

橋本 隼さんは、父 浩さんが厨房に立つ姿に憧れ、料理人になることを決意しました。高校卒業後、福岡県の料亭で5年間修業を積み、帰郷しました。当初は、料亭の味を提供しようと思いましたが、地元の皆さんの嗜好に合わず試行錯誤しました。しかし、常連さんに温かく育ていただき、今では、地元の皆さんの嗜好に合わせた上品な味を確立することができました。その後、市外の方にも店の味を知ってもらおうと、外部販売することにしました。そこで、父が考案した味噌ベースの太喜鍋を超えるものをと考え、しょうゆ出汁の桜王豚のしゃぶしゃぶ鍋を開発しました。そして、今では県内外のデパートのお中元やお歳暮として販売され、無添加の出汁パックは海外での取引も始まりました。

隼さんは、「これまで弟と二人三脚でやってきましたが、外部販売の事業が拡大してきたので、今年中に法人化して、外部販売部門を弟に任せようと思っています。私達二人の目標は、いつまでもこのお店を続けていくことです。そのためにも、二人で力を合わせて、これからも多くの人に愛される店であり続けたいです」と話していました。



左から弟の拳さん、母の法子さん、隼さん



うえの ともこ
上野 知子さん

社会福祉法人 安岐の郷
特別養護老人ホームむさし苑(武蔵町糸原)

上野 知子さんは、中学生時代にデイサービスに通う祖母が楽しそうに帰って来る姿を見て、介護の仕事を目指すようになりました。介護福祉士の資格を取得するため、県外の学校に進学し実習を積む中で、施設入所者の生活介助に興味を持つようになりました。卒業後に帰郷し、特別養護老人ホームむさし苑で働くようになり、以来16年間希望していた入所者の生活介助を行っています。また、5歳から始めた剣道は、社会人になっても続けており、10年前から小中学生の合同練習のお世話や試合の審判もするようになりました。

知子さんは、「周りの皆が楽しんでくれることに喜びを感じるので、入所者のできない部分を支えるだけではなく、今後の楽しみを一緒に見つけていきたいです。また、剣道をしている子ども達には、大人になってもずっと続けてほしいので、剣道の楽しさをたくさん伝えていきたいです」と話していました。



各分野で光を放っている 人にスポットをあてる

国東の輝きひと Vol.10

辰口 広樹さんは、幼い頃より梨園で汗を流す父 善明さんの姿を見て、いずれは一緒に梨栽培をしたいと思うようになりました。国東農業高校卒業後、さらに高度な栽培技術を習得するため、東京農業大学に進学しました。卒業と同時に就農しましたが、受粉時期や出荷時期をずらすため、10品種を栽培しており、作業を覚えることで精一杯だったそうです。しかし、徐々に学校で学んだ技術と知識を活かせるようになり、父と一緒に高品質な梨が収穫できるようになりました。今では、毎年「橋上梨」をたくさんの方が楽しみにしてくれています。

広樹さんは、「父がこの土地に合った品種を探すため、長年にわたり新品種に挑戦し続ける姿を見てきました。その中で作り上げてきた『橋上梨』の味をしっかりと守っていきたくです。また、いつかはその味を超えたいと思うので、この土地に合った品種を追い求めていきます」と話していました。



たつぐち ひろき
辰口 広樹さん

(安岐町山浦)



左から母の和恵さん、父の善明さん、広樹さん、妻の渚さん